R&Dフェーズ｜研究　**実用化時期**｜FY27-

Mehr Licht!
More Photonics for Intelligence

#B08

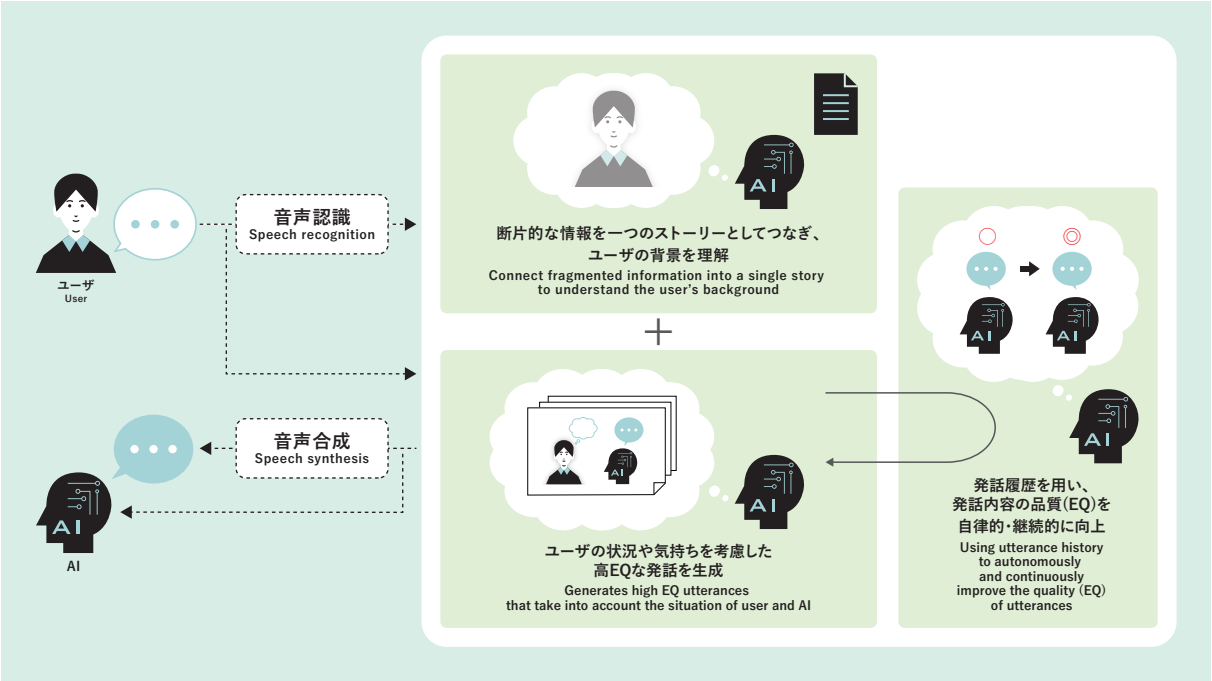
#顧客体験(CX)#ステークホルダーとの対話

高EQ対話を実現する対話知性技術

対話を重ねながら自らの応え方を評価・改善し、状況を考えて発話するAIへ成長します

技術課題・ゴール

対話AIが通り相手の発話を表層的にとらえ、個々の相手の立場や状況を考えた応え方ができないという課題があります。
それに対して、AIがAI自身の発話により話し相手のユーザに与えうる影響を人のように発話前に考えた上で発話内容を決定しさらにAIが自律的に改善する技術、話し相手の断片的な情報からユーザの背景を理解する技術を実現することで、対話AIがパートナーとして人の各種サポートを行えることをめざします。



技術ポイント

要素技術

・AIによる発話内容のEQ評価・高EQ発話プロンプト生成技術、および対話を通じた自律改善サイクル
・対話からユーザの特徴的な経験を抽出し、出来事に対する解釈などを含め、ユーザ像を一連の「物語」として構造化

市中技術差異点

・tsuzumiをベースに、日本語表現や日本的なコミュニケーション特性を考慮したEQ能力を組み込み、AI自身による発話の評価・自律改善を実現
・高いEQ能力で断片的なユーザ情報を「物語」としてつなぎ、相手の背景や状況まで汲み取った発話を生成

適用ビジネス/ユースケース

コミュニケーションサービス

人を日常的に支援するAIバディを用いたサービスにおいて、情報提供だけにとどまらないユーザの人となりや立場も踏まえた上での対話が可能となり、「親しみが沸きやすい」「話しやすい」「自分をわかってくれている」AIバディを実現します。

出展組織

NTT株式会社 人間情報研究所
株式会社NTTドコモ モバイルイノベーションテック部